

一般社団法人日本地質学会 2012年度第4回理事会議事録

期 日：2013年4月6日（土）13：30～18：06

場 所：北とぴあ 802会議室（北区王子1-1）

出席役員 理事（28名）：安藤寿男 伊藤谷生 井龍康文 石渡 明 ウォリス・サイモン 永広昌之 笠間友博 川端清司 斎藤 眞 柴 正博 高木秀雄 竹内 誠 田村嘉之 内藤一樹 中澤努 久田健一郎 平田大二 藤本光一郎 星 博幸 保柳康一 松田達生 松田博貴 向山 栄 矢島道子 山田泰広 山本高司 脇田浩二 渡部芳夫

欠席役員 理事（22名）：天野一男 市川八州夫 伊藤慎 大津 直 小山内康人 太田泰弘 狩野彰宏 川辺文久 清川昌一 小嶋 智 坂口有人 佐々木和彦 芝川明義 高橋正樹 竹下 徹 西 弘嗣 藤林紀枝 宮下純夫 宮田隆夫 村田明広 山口耕生 山路 敦

監事（2名）：青野道夫 山本正司

その他出席者 オブザーバー 小川勇二郎会員 事務局：橋辺

*成立要件：理事総数50名の過半数26名、本日の出席者28名で本理事会は成立。

*議決：出席者の過半数15名

*書記2名の選出：竹内誠理事と山田泰広理事が選出された。

報告事項

1. 執行理事会報告

1) 12月～3月執行理事会議事録要点ほか（斎藤常務理事）

2013-1～2013-3の執行理事会議事録に基づき、第7～10回執行理事会の要点が報告された。

2) その他

・運営財政部会会員担当：50年会員について（山本理事）

新たに50年会員になった17名が紹介された。また会員数動向が報告され、会員減少を食い止めるための協力をお願いしたいとの発言があった。この1年間に逝去した会員が紹介され、黙祷を捧げた。

・Island Arc 編集状況報告（井龍理事；伊藤慎慎編集委員長の代理）

震災の影響で総ページが大きく減少したが、その後投稿数が回復していること、特集号企画が進んでいることが報告された。

またIsland Arcの名称変更の中間報告があり、提案された41案に対して、編集関係者での投票により、上位5つに対して、幅広い研究領域をカバーすることと特定地域に特化したものでない雑誌であることを考慮し、Island Arc, Global Geosciences Research,

Progress in Geosciencesを候補とし、5月の総会までに最終報告ができるよう準備していると報告があった。

・行事委員会：年会関係報告（星理事）

地質学会学術大会を単独開催にするか、学術大会の共催/同時開催をするかの基本方針について議論した結果、現状通りとする方針が確認された。

学術大会のセッションの再編について、何年もトピックセッションとして採択され、発表数が多いものはレギュラーセッションに移行させることにして、仙台大会のセッション立てを決定したと報告された。レギュラーセッションでも招待講演が可能になったこと、レギュラーセッションが他学協会と共催にできるようになり、堆積系4セッションを日本有機地球化学会と共催すること、地質巡検の協賛依頼することなどが報告された。なお、仙台大会のキャッチコピーは6案の中から選考中である。

・社会貢献部会報告（中澤理事）

5月開催の地質調査研修は定員に達し、秋にも実施予定があることが報告された。

また、5月10日の地質の日行事として、本部企画「街中ジオ散歩in Tokyo」や支部企画が紹介された。

2. 理事からの報告

1) 日本ジオパーク委員会報告（高木理事）

新たに申請予定地の紹介があり、候補地選考のための公開プレゼンテーションが5月20日に実施されることが報告された。

2) 原子力規制委員会での断層調査について

（藤本理事）

有識者会議委員の選出経緯や現状報告があり、地質学会は委員数や露頭観察という点でも重要な立場にあるとの指摘があった。今後記者などにレクチャーなどを行っていく必要があると報告された。また、以下のような質疑応答があった。

大飯原発に関する会議ではYouTubeで公開され、委員会よりすぐにWEB上に情報が公開されたが、という質問に対し、敦賀原発以降は、冒頭5分のみ報道に公開されるように変わったとのこと。事業者からの情報はオープンなのか、との質問について、全てがオープンというわけではないが、会議に出された資料はすべてHPに公開されているとのことであった。

3) 名誉会員推薦委員会報告（ウォリス理事）

2月末までに1名の推薦があり選考を開始したが、推薦者より、本人が推薦辞退のため推薦取り下げの連絡があった。そのため、候補者がなくなり、本年度の推薦者はなしと報告された。

4) 各賞選考委員会報告（井龍理事；竹下委員長の代理）

問題点の申し送り事項として、論文賞と研究奨励

賞の推薦数が少ないので、各専門部会が率先して推薦するようにして欲しいとの報告がされた。

対象となる論文が減少しているのので、投稿数を増やして欲しい、また柵山賞と研究奨励賞は性質が異なるので、柵山賞の対象年齢を引き上げてはどうか、選考体制がうまく機能していないのではないかと、などの意見が出された。

3. その他

1) IUGS理事会出席報告および10月の仙台自然科学シンポジウム(小川勇二郎IUGS理事)

・IUGSとIGCPの組織や活動の相違について報告があった。4年ごとのIGCの間に異なった性質の地球科学会議を開催する動きがあることが報告された。活動の中に日本露頭100選のような露頭保全運動が含まれているとの報告がされた。

・10月19日～20日に仙台でG-EVER国際シンポジウム(IUGS共催で資金支援あり)が開催されるとの報告がされた。招待者は国内外10名ほど。

2) 中期ビジョン改訂WG委員の選任(斎藤常務理事)
分野等を考慮して検討中。追加委員の就任依頼が坂口理事よりあるかもしれないとの報告があった。

3) 立川断層トレンチ調査における人工物誤認について(伊藤理事)

人工物誤認の経緯について説明があり、地質学会として何をすべきか、またあると思われていた変動地形もなかったことに対して、地質学会として今後何をすべきかを考えて欲しいとの意見が出された。

4) 地学オリンピック(久田理事)

2016年国際地学オリンピック(三重大会)の組織委員長に平朝彦氏の内諾が得られたことが報告された。またNPO法人地学オリンピック日本委員会の理事長として、久田氏が5月に就任する予定であることが報告された。

5) フォトコンテスト(内藤理事)

5月18日に表彰式が開催され、その後、埼玉県立自然の博物館や兵庫県立人と自然の博物館で作品展が開催されることが報告された。

審議事項

1. 2012年度事業報告案(斎藤常務理事)・決算案(山本理事)

事業報告および決算案については概ねこの内容・項目で総会に付議されることが、全会一致で承認された。なお、決算は5/15に会計監査の予定であることが報告された。

2. 2013年度事業計画基本方針最終案(石渡会長)

基本的にこの内容で総会に付議されることが全会一致で承認された。なお語句を修正した後の文面をメールで送付することとなった。

3. 2013年度予算案および引当金名目変更の件(山本理事)

予算案ならびに、とくに125周年事業に関する事業資金として、現在ある総目録刊行引当金を「125周年事業引当金」と名目変更することが提案された。当引当金は目録の刊行がなくなった後もそのまま保留されていたものである。基本的に提案どおり総会に付議されることが全会一致で承認された。

なお、前年度実績と比較する形で予算書を作成すべきではないか、地学オリンピックへの協賛金に関連して、国際地学オリンピックの予算案は文科省への報告のために、2015年春には確定してはならない。現在、2014年に限り寄付金優遇措置を受けられるよう準備中なので、地質学会からの協賛金も2014年度にまとめてほしい、などの意見が出された。

4. 各賞受賞者の選出

本件の審議においては、利益相反の対象となる井龍理事、ウォリス理事を除いたうえで、各賞選考委員会から提出された原案通り、総会に付議されることが承認された。

なお、井龍会員と岡本会員の対象研究テーマについて、修正が各賞選考委員会に要請された。

5. 中期ビジョンの改訂について、WGの設置(斎藤常務理事)

委員は各部会より推薦を受け現在調整、選任中、決定次第、坂口理事が担当となって委員会を立ち上げることが全会一致で承認された。

6. 125周年事業について(斎藤常務理事)

執行理事会より示された方針で進めることが全会一致で承認された。準備委員会委員長として矢島理事が選出され、委員長が次回理事会に他の委員(3名程度)案を提示することとなった。

7. 論文賞の対象論文の範囲についての検討(斎藤常務理事)

この件は前回理事会からの懸案事項であるが、今回再提案された関連の規則変更案とともに執行理事会で再度検討後、改めて次回理事会に提出することとなった。主な意見は下記の通り。

- ・掲載されたすべての著作を論文とする方向性で良い。
- ・提案内容は運用で対応可能なので、選考委員会への申し送り事項として整理してはどうか。
- ・正会員をすべて会員と修正し、それに含まれる名誉会員を記載から削除してはどうか。
- ・非会員筆頭の優れた論文も将来的には対象に含めて良いのではないかと。ただこれは学会の今後のあり方にもよる。
- ・IAのinvited論文は対象に含めて良いだろう。

8. 地質学雑誌編集委員会規則の改正案ならびに編集委員の選出(斎藤常務理事)

第9項の「委員」を「委員会」にした上で、改正案と編集委員選出案が全会一致で承認された。

9. 名誉会員のあり方の検討について=シニア会員の

問題など（ウォリス理事）

現時点での検討内容が紹介され、さまざまな議論があったが、名誉会員に選挙権を付与することに異論はなかった。これまでの検討内容を整理して、執行理事会が原案を作成し理事会に提案すること、今後も検討を進めることが確認された。

10. 総会議案の決定

原案通り、全会一致で承認された。

11. その他

1) 支部運営規則への追加について

支部独自の表彰を行えるように運営規則「第4章 支部」の4項に下記を追加する件は、原案通り全会一致で承認された。

4 支部は、支部の表彰規則を定め、当該支部区の会員・非会員の個人および団体を表彰することができる。表彰に際しては、学会本部の表彰と重複しないよう考慮する。

以上

2013年4月19日

一般社団法人 日本地質学会
理事会議長 安藤 寿男
副議長 松田 博貴
代表理事：会長 石渡 明
理事：副会長 渡部 芳夫
理事：副会長ウォリス サイモン
以下出席理事の氏名・捺印続く